

# 新年という山を登る



熟練した登山家でさえ、慣れない山を登る時にはガイドが必要です。実のところ、ガイドなしで登ろうとするのは、向こう見ずな初心者ぐらいなものです。たとえば、この私のように。

何年も前、休暇でスイスに行った時のことです。最終日に、私は友人と近くの山に登ることにしたのですが、登り始めた頃には夕方近くになっていました。しばらく進むと、山の中腹で羊の放牧を一日中していた無骨な羊飼いが下りてきて、通りすがりにこう言われました。

「山ではあっと言う間に暗くなるぞ。明日まで待って、ガイドを雇うことだ。」 そう警告されても、「明日」では遅すぎます。明日の午後には、家に戻る汽車の中なのですから。そこで、私たちは急ぎ足で山道を登りました。

一日の終わりには確実に夜が来るもので、あたりは間もなく完全な闇に近い状態になりました。空は雲で覆われており、月や星の明かりさえありません。道の先など見えるはずもなく、足元のごつごつした山道を確かめるのがやっとでした。一步踏み間違えれば、山から転げ落ちてしまいます。やむなく、山の上で一夜を過ごすことになりました。

寝袋は一つ。交替で使うしかありません。

そのうちに雨が降り始めました。しかも、どしゃぶりです。寒かった上に、私たちも、寝袋も、ずぶ濡れになりました。突き出た岩の陰でなんとか雨をしのぎ、長くつらい一夜を過ごした後、やっと夜が明け、雨もやみました。これで下山できます。

山道を下っていると、前日に話をした羊飼いにまた出会いました。私たちの惨めな状態を見ると、羊飼いはあきれて首を振り、おかしさと安堵が入り交じった表情をしていました。あれ以上寒ければ、私たちはきっと凍死していたことでしょう。



新しい年に訪れる困難に立ち向かうのも、山登りに似ています。大変な努力を要し、危険にさらされる可能性があったとしても、それを受けて立ち、頂上にたどり着くまであきらめない人には、特別な報いがあります。

ただ、私たちは時として自信過剰になり、自分だけでできると思ってしまうのです。賢い人なら、ガイドの助けが必要だと気づくことでしょう。そして言うまでもなく、聖書に書かれているように、私たちの魂の「大牧者」（羊飼いのかしら）であるイエスにまさるガイドはいません。イエスは、どこに緑のまきばがあり、どこに危険が潜んでいるかを知っておられるのです。イエスの近くに留まるなら、私たちがこれから一年のゴールに達するのを助けてくださいます。